

1. 第47回全国支部長会

日 時：平成22年6月6日(日) 10:00~12:45
場 所：ANAクラウンプラザホテル広島 3階 アカシア
出席者：各支部長等（別紙のとおり）

議事等：

- (1) 議事録署名人の選出
- (2) 各支部からの状況報告
- (3) 工学研究院（科）・工学部の現状と当面の重点課題
広島大学大学院工学研究院（科）長
吉田総仁教授
- (4) 本部からの連絡等
 - ①広島工業会会費納入状況について
 - ②平成21年度広島大学卒業・修了予定者就職状況について
 - ③会員リストについて

井上専務理事の司会で第47回全国支部長会を開会した。冒頭、議長選出を行い、慣例により高東会長に決定された。

続いて、高東議長（会長）より挨拶があった。各支部長に対し、お忙しい中での本支部長会へのご出席および日頃からのご尽力に感謝の意が示された。

(1) 議事録署名人選出

高東議長より「議事録署名人を瀧宮、秋両校内理事にお願いし、選出したい」との発案があり、異議なく選出された。

(2) 各支部からの状況報告・意見等【要約】（敬称略） 北海道（西島）

- ・支部の面積は広いが、北海道は全国企業が少なく、支部会員数は31名であり、3分の1は現役をリタイアしている。主に北海道大学、室蘭工業大学、新日鉄、カルビー、出光興産北海道製油所から構成されている。
- ・昨年10月3日に札幌で開催された支部総会の参加者は5名であったが、支部長中心に年1、2回の懇親会を行い、特にOBの方々にも足を向けてもらえるような会にしたいと考えている。

⇒（本部）北海道支部は企業だけではなくリタイアされた方も含まれた会員数ということで、OBの方が参加できる機会をできるだけ増やしてほしい。

茨城日立（豊田）

- ・茨城日立支部は職域支部であり、日立製作所および日立グループ会社（関連会社・日立化成・電線系その他もろもろ20事業所くらい）で組織しており、9ブロックに分かれて活動を行っている。
- ・連絡手段は社内メールを利用している。非常に分社化が進んでおり、新入社員がどこにいるのかわかりづらくなっているのだが、何とかそれに対応し解決する事を目標としている。

⇒（本部）新入社員の件は、共通したテーマになると思うので後程お話ししたい。

関東（中田）

- ・全体の構成メンバーは約3,400名。

- ・毎年、椿山荘で、大学から先生に来ていただき、工学部の現状を聞いたり、広島大学で行っている最新の研究の一端をご紹介いただいている。昨年は吉田工学研究科長、杉本俊多先生にお話を伺った。出席者数は約60名。
 - ・19回連続で総会や懇親会の司会をしてくださっていたNHKの元キャスターの宮本順子氏が四国に帰郷、在京メンバーの女性を発掘したいと思っている。
 - ・田町に広島大学東京オフィスがあるということで、色々な形での集まりが可能となり、新しい段階を迎えているのではないかと思う。例えば体育会系の関東支部では、試合や競技大会の度に20~30名くらい集まるので、このような事を大切にしたい。
 - ・大学の工学部の名称が類になっているが、昔の学科のイメージと結びつきにくい。
- ⇒(本部) 東京オフィスは田町の駅から数分のところにあるので、機会があれば積極的に覗いてほしい。

横河電機(梶谷)

- ・1企業支部、現役のメンバー33名で構成されている。関東支部総会へも参加している。
 - ・海外在住の方もおり、なかなか総会等が開催できずにいたが、昨年は久しぶりに約半数が集まり、若い世代との繋がりについて話し合った。
- ⇒(本部) 会員33名は現役の方ということだが、OBの方もコミュニケーションが取れるよう、検討してほしい。

静山(山本)

- ・前支部長の鈴木氏が体調を崩されたため、支部長の交代が行われた。
 - ・静岡県と山梨県の2県を統合した支部であるが、最近では静岡県だけで活動を行っている。
 - ・若い人が参加しやすい環境を作る為に、年会費の廃止や総会・懇親会への参加費を抑えるなど工夫をしているが、昨年の出席者数は10名であった。
 - ・新卒者の名簿等の情報がなくて非常に苦労している。
- ⇒(本部) 名簿等の件は共通のテーマなので、後程お話しさせてもらいたい。

愛知県(衣川)

- ・支部会員数は483名と数は非常に多いが、総会を開

く時に案内状を送付する人数は50~60名くらいである。

- ・新卒社員がどんどん入ってきている。各企業別に同好会を行っているところもあるが、支部としては狭い範囲の活動にしかになっていないことが課題である。
- ・毎年11月に支部総会を開催しているが、昨年は井上専務理事にご出席いただき、本部の課題や活動状況などを聞くことができた。出席者数は16名。
- ・新しい活動としては「広島大学ホームカミングデー」に参加をした。
- ・4年前から「支部報」の発行をしており、情報を伝達している。

⇒(本部) 全国の各支部から依頼があった場合には、出来るだけ出席していきたい。昨年、支部総会に出席して非常に面白かったのは、衣川氏が個人出版された「天孫降臨の謎」についての講演であり、このようなミニ講演会とか歴史を考える会は、支部の活性化に繋がると思う。

滋賀県(濱中)

- ・支部会員数は、約300名である。
- ・総会は年1回開催し、毎年6月の第2日曜日に日程を固定している。昨年の出席者は26名。
- ・会費は総会への出席者から一人1万円いただいている。
- ・総会は、総会と会員スピーチで午前中に約2時間、その後も約2時間程度を懇親会というスタイルで和気藹々として楽しい雰囲気で行っている。
- ・メールや返信用ハガキで約300名に案内状を送付しているが、反応があるのは50名程度である。出席、欠席は別としてとにかく反応してほしい。
- ・ゴルフの同好会を作り、年2回楽しんでいる。ゴルフをきっかけに総会に参加するようになった人もいる。

⇒(本部) 同好会的な集いも活性化の一つではないかと思う。このまま継続してほしい。

大阪(中村)

- ・大阪府下ではおそらく1,600名近くいるが、登録されている支部会員数は100名程度である。そのうち、会員の7割くらいが会社をリタイアされた方で、現役の方は3割くらいに止まり、平成年度の卒業生の入会は非常に少ない。
- ・年会費1,000円で3年に1回、継続会員と新規に入

会案内を出している。

- ・関西フェニックス会・近畿地区広島県人会があり、参加している。
 - ・3月12日(土)に総会を開催したが、出席者数は現役2名、OBの方10名、計12名であった。
 - ・年4回、電子メールによる「季报」を発行している。
- ⇒(本部)若い人を確保するという事は困難だが、何とか回答を得ていきたい。

神戸(平岡)

- ・昨年は新型インフルエンザにより大混乱し、生産活動の活気のなさが支部活動にも影響していた。
 - ・規模が大きいため、小口の会が多く存在する。応用化学関係であれば親和会があり、同窓会も盛んに行われている。
 - ・支部活動としては電子46年卒で現在、大変脚光を浴びている「篠田プラズマ」という会社を立ち上げられた篠田 傳氏とコンタクトを取り、講演をお願いしようと考えている。
- ⇒(本部)活躍されている方の講演は支部活動に良い影響を与えるので、是非実現してほしい。

岡山県(安藤)

- ・ゴルフが盛んであり、ゴルフの合間に総会や忘年会、幹事の集会が行われているような活動状況である。日帰りの親睦旅行やチャリティゴルフコンペへの参加も恒例となっている。こういう会にも積極的に参加して、健康第一、親睦第一で活動を行っている。
 - ・年1回の総会以外にも上記のような集まりを度々行っているが、会員の拡大には繋がっていない。
 - ・今年度の総会は未定だが、支部長の蜂谷氏が是非高東会長にもご出席賜りたいと申ししており、改めてご案内を申し上げるつもりである。
- ⇒(本部:高東会長)昨年は急な欠席で申し訳ない。支部の総会には、是非出席したいと考えている。

三井玉野造船デルタ会(矢定)

- ・三井造船玉野事業所の広大卒メンバーで主に構成されている。
- ・ここ数年、新卒の会員が増えてきている。支部会員数26名のうち、平成以降の卒業生は20名と大多数を占めており、年齢的には非常に若い企業支部である。
- ・また、広大出身で工学部以外の方にも参加を呼び掛けている。

- ・新入社員の歓迎会兼総会を年1回開催している。その年に歓迎会をしていただいた方が翌年の幹事となり、歓迎会の企画や案内をするというユニークな流れで行っている。

⇒(本部:高東会長)企業内支部は、横の繋がりがあると仕事上都合の良いこともあるので、工学部に限定せずに声を掛けて緩い形での運営を行ってもらいたい。

広島大学(松尾)

- ・毎年支部長を交替するシステムにしており、今年度は先端物質科学研究科の小埜先生にお願いをしている。
 - ・活動としては、年1回、ホームページの更新や総会・懇親会を実施しており、情報交換を行っている。
 - ・工業会本部が非常に近いところにあるので本部と連携しており、近隣支部の総会・懇親会での講演等、活動を行っている。
 - ・同窓生の立場ということで、2つお願いをしたい。1つは受験の志望者数の増加を図ること、もう1つは、研究予算との関係で、ドクター・博士課程の数を増やすことが非常に大切な課題となっている。卒業生の方にも是非社会人ドクターをお勧めしたい。
- ⇒(本部)これは母校の広島大学からの要請であるので、ご検討をお願いしたいと思う。
本部としては広島大学支部と連携を密にしながら進めていきたい。

東広島(木谷)

- ・東広島支部は東広島市内に在住もしくは勤務している人が対象である。
- ・支部長、副支部長、事務局を会員の多い企業が2年交替で回していく制度をとっており、役員は22名で、情報の伝達や資料配布を企業に属している会員には理事・監事が行き、個人会員には事務局が行っており、細かいネットワークを張り巡らせているというのが一つの特徴である。また、役員の年齢層は、ここ数年若返りが進んできている。
- ・支部活動としては、役員会と総会があり、5月の終わりに開催された役員会への出席者数は半数の10名であった。議事は30分程度行われ、その後約3時間が飲み会という形式で、役員が和気藹々としているのも特徴である。また、総会は以前の施設見学から、講師の先生による研修会に変更しており、今年

は「エビ」がテーマである。

- ・支部行事である総会出席者数は22名となっているが、半数は役員であり、一般の方々の出席は伸びていない。また、大学から2名の先生にご出席いただく事を恒例としている。
 - ・支部の資金に余裕があるので、新卒対策として、新入会員の方の懇親会費を無料にし、お酒の小瓶や食品などのお土産を付けるという新たな企画を7月9日に予定している。
- ⇒(本部) 東広島支部は企業支部ではないので、役員の連携を密にするという形をとっておられて、これは素晴らしい事だと思う。是非継続していただきたい。それから、大学や本部に近いので、可能な限りコミュニケーションを取っていききたいと思う。

バブコック日立(金本)

- ・企業内部の広島大学出身者は約80名で工学部出身者は58名と圧倒的に多く、今春新卒者は4名入社し、内3名は工学部の出身であった。
- ・支部活動は、例年、5月の歓迎会と12月の忘年会の年2回、会合を行っている。新入社員が多いので大変活気があると感じている。
- ・広島大学には、包括協定、講義(蒸気動力)や共同研究、それから若手研究人材養成センターでのセミナー等で連携を持たせていただいております、今後も関係を保っていききたい。

マツダ(森川)

- ・支部会員数は約490名ということで、単独企業では最大の組織ではないかと思う。今年は10名の新卒者が入社してきている。
- ・新入社員の歓迎会も含めて、毎年6月に支部総会を実施しており50~60名の参加があったが、OBが大半を占めるため、2年程前から現役の方だけの会合ということに方針を変えている。その結果、昨年は50名程度、一昨年は60名程度の出席者があった。
- ・先輩とか後輩といった関係が薄れてきており、その中でいかに支部活動を行っていくかが今後の課題だと思う。

⇒(本部) 現役とOBに分割する方式で検討されているが、今後の状況を教えていただきたいと思う。

三菱重工広島(桑原)

- ・三菱重工広島支部から三菱重工広島支部に支部名を変更した。支部会員数は42名であり、三菱重工に入社して広島支部にあるグループ会社に所属している

人で構成されている。

- ・グループ会社による単独採用の方などでもできるだけ会に参加できるように、3月5日の総会で会則の改正を行った。該当する10~20名の方々とも横の繋がりを大切にしていきたい。
- ・支部の予算に余裕があるので、会員の総会への負担金を無料にした。また、全員に声を掛けることで、どうしても来られない人を除き多数の参加があった。今後は幹事に若手を入れる事により、活動をより活発化していきたいと考えている。

⇒(本部) 会則をフレキシブルにするという考えは、素晴らしい事だと思う。その時代に合うような対応をしてほしい。

中国通信デルタ会(森)

- ・NTTグループ及びその関連企業から構成されている企業支部であり、会員数は中国5県で120名であるが、実際には広島、もしくは広島近郊に在住の方がメインで活動している。
- ・支部行事としては、年1回の広島で開催される総会と大阪が会場となる懇親会がある。なお、総会への出席者数は20名でOB中心であり、懇親会は大阪在住の現役の会員や理学部・生物生産学部など他の理系の学部も参加していただき、毎年40~50名集まって盛り上がっている。
- ・秋の総会ではもっと柔軟に、他の学部にも声を掛けて盛り上げていきたいと思っている。

中電工デルタ会(中原)

- ・企業内支部であり、支部会員数は12名で最も小さい支部であると思われる。
- ・会員は、広島市及び近郊に9名、他地区に3名(出雲、倉敷、岩国それぞれ1名)おり、主な活動は広島市近郊の9名で行っている。
- ・支部活動は年1回懇親会を開催し、近況報告や親睦を深めており、今年度は6月9日に開催する予定である。本日参加の支部の方々の活動内容を紹介して、当支部活動の参考にさせていただきたいと考えている。
- ・当支部一番の問題は、元々人数が少ない上に新入社員が入ってきていないので、このままだと支部の存在自体が危ういのではないかという事である。来年度以降、新入社員が入ったら必ず声を掛けて参加していただくように努力していきたいと思っている。

日本製鋼所（恵木）

- ・支部会員数は44名で、昨年の支部総会は8月7日に
行われ出席者数は39名であった。出席率が非常に
高いが、その要因の一つは支部長が広島製作所長で
あること。所長が出席して一人一人と話をすること
を心掛けるようにしているの、それも一つの原因か
と思われる。
- ・OBは含まれていない。異動で広島から他県に出た
場合は退会し、また戻って来られたら再び入会する
という形をとっている。
- ・会費は昨年までは四半期ごとに4,000円を徴収して
おり、負担が大きかった。これはビンゴゲームなど
で豪華景品を出していたので軽減し、今は四半期
3,000円にした。その代わりにコミュニケーションの
時間を増やそうということで所長ができるだけ多く
の人と話をコミュニケーションを図るようにし
ている。

西川ゴム工業（米山）

- ・西川ゴム工業支部は西川ゴムとその関係会社のメン
バーによって構成されている。現在、現役が57名
で、この中にOBの方は入っていない。県外、国外
でも支部会員として名前を登録している。
- ・支部総会と懇親会は毎年1回、新入社員の歓迎会を
兼ねて開催している。しかし残念ながら、昨年も今
年も広大工学部出身の新入社員は入っておらず、来
年に期待している。今年は2月に開催し、出席者数
は34名であった。顧問やOBの方にも声をかけた
が、今回は現役のみの参加であった。

⇒（本部）OBからの声も分かれば教えて頂きたい。

ヒロテック（信藤）

- ・支部会員数は20名で、その内16名は設計、開発に携
わっており、日々の業務でコミュニケーションを取
りながらやっている。その内1名はアメリカへ出向
しており、昨年非常に調子が悪かったGMとも大き
な取引があり、本社とも頻繁にやり取りがある。そ
れ以外の4名に関しては、1名は弊社のトップであ
る会長、残り3名は総務や企画など各部門全体をま
かなっている者なので、20名全体が会社の中で日々
接する機会が多い。
- ・年1回、夏から秋にかけて親睦会を開催している。
昨年は20名の内16名の参加。出張、出向しているた
め参加できなかったメンバーを除いてほぼ全員が参
加している。メンバーの中には女性が3名いるが、

全員ご参加いただいた。会長と若年社員とのコミュ
ニケーションを取る非常に良い場となっている。今
までは現役メンバーのみだったが、今年からはOB
のメンバーを含めて開催したいと考えている。

- ・余談ではあるが、広島大学は毎年、琵琶湖で開催さ
れる鳥人間コンテストに参加しているが、弊社のメン
バー1名もパイロットとして参加している。今年も
開催される予定のようなので、メンバー一同応
援している。

⇒（本部）全会員のコミュニケーションが強いような
ので、このまま続けていけるよう頑張ってください。

広島市役所（高廣）

- ・今年度から支部長を務めておりますのでよろしくお
願います。
- ・今年から支部長を含め7名体制から11名体制に変更
し、若い人に担ってってもらいたいとの思いから
呼び掛けて増やしたが、結果としては昭和53年や54
年卒業の方々であり、構成としてはあまり変わりが
なかった。現在、総員数は193名で、なかなか情報
が入手できない中で、人づて等で集め広大工学部出
身ということが分かっている方々の名前がある。
- ・広島市役所では工業会の他に土木、建築がそれぞれ
別の会を持っており、それぞれが懇親会等も開いて
いる関係で、総会を開いてもなかなか人が集まら
ず、30~40名位に参加していただいている状況であ
る。
- ・今年は7月30日に決定し、総会を開こうという風に
進めている。その準備のための会合も6月25日に新
幹事を集めて開く予定である。OBについてのお話
が出ているが、広島市役所支部では元来OBは含め
ていないが、次の幹事会の際には出席したいとい
う方もおられるので、その辺のことも協議したいと考
えている。

⇒（本部）土木、建築が別の会を持っているとのこと
だが、そのメンバーの方達は工業会にも入ってお
られるのか。

- ・一応登録はして頂いているが、土木が一番多いの
で、そちらの方で市役所支部の組織を受け継いで
もらえたら一番良いと思う。しかし、会長にお願いし
ても、それぞれでやりましょうということで統一が
なかなか難しい現状である。

中国経済産業局（上田）

- ・当支部会員数は現在19名で、その内OBが7名、現役が12名である。OBの中にはリタイアされた方だけでなく、途中で大学の教員として転職された方や、自治体に行かれた方もおられるが、こういった方も経済産業局出身ということで引き続き会員として活動に参加して頂いている。
 - ・私どもは広島合同庁舎の2号館の中にいて、2～4階の3フロアで完結しており、会員同士のコミュニケーションについては密にいつでもできる状況である。
 - ・活動としては、冬と夏に年2回、懇親会を開催している。出席者は19名の内およそ10名以上、現役については大体参加して頂き出席率は良い。昨年は2回行う予定ではあったが、皆さんの都合などで延び延びになり、昨年は秋に1回総会を開催した。
 - ・年代的には幅はあるが、平成14年以降に経済産業局に入って来られる方がいないので、入ってきていただけたらと思う。
- ⇒（本部）今までお聞きしていると、メンバーにOBを含む所と含まない所があるようだが、できることならOBも含めていただければと思う。

シンコーデルタ会（山根）

- ・会員総数は現在40名いるが、他学部出身者12名を含めており、工学部出身者は28名である。年齢層は新入社員から、現役で頑張っている90歳の会長まで、すべて現役の構成員である。
 - ・毎年1回、懇親会という形で会合を持っており、昨年は9月に会合を開いた。広島大学からは山根副学長と機械システム工学の篠崎教授にご出席いただき、広島大学の現状等をお聞きした。次の年に入ってくる新入社員にも出席していただいております。昨年は3名の方を招待した。出席者39名のうち36名が会員で、会員数が40名なので、出張などで来られない者を除くと、ほぼ全ての会員が出席したことになる。
 - ・私どもの会社では、広島大学出身者は全てデルタ会に入会することになっており、月々の会費は給料から天引きして懇親会費に充てている。そのためか出席率が非常に良い状態である。
- ⇒（本部）給料天引きというのは良いシステムであるが、できる所とできない所があると思う。アットホーム的な所は大切にしていけるのではないかと思います。

うので頑張ってください。

熊平製作所（中村）

- ・当社は、会員集めは苦勞なく出来る。毎年2回、飲み会という形で続けている。新入社員が多い年は、持ち回り幹事と称してやってもらっているが、一時10名前後に落ち込んだ時があり、その時には企画として例えば、冬寒期中、屋形船に乗ったり、近くのスーパー銭湯に行くなどして人数を集め続けている。
 - ・OBも含めており、社内にはメールで通達し、OBの方には葉書で連絡を取っている。
 - ・今年は7月に予定しており、全員でマツダスタジアムに行ってバーベキューを囲みながらやろうと企画しており、今回は全員が集まる予定となっている。
- ⇒（本部）マツダスタジアムへ行くのは非常にいい事だと思う。後日談を聞かせてもらえればと思う。

広島アルミ（三島）

- ・広島アルミ支部の会員は32名である。拠点としてはいろんな所に分散しているので、年1回、懇親会を行っている。
- ・ここ10年位は工学部出身の方がおらず、他学部からの入社が増えているので、一昨年から他の学部の方とも交流するという活動を行っている。昨年からOBの方にもご意思を確認した上で、残っていただけの方には名簿に載せさせてもらう形で活動を続けている。昨年は嬉しい事に、工学部からの入社が1名あったので、さらに若手の方の活性化を図っていききたい。

周南（白神）

- ・私どもは地域支部ということで、周南市、下松市、光市の3市に勤務する人、勤務した人、居住する人で構成されているため、名簿整理に非常に苦勞している。幹事会社あるいは学校を中心に先輩がいる所で名簿の整理を続けている状況である。
 - ・支部の総会は2年に1度で、昨年度は実施しておらず、今年度は10月に開催する予定となっている。前回は日程の調整がつかず、本部から来ていただけなかったのが、今年度は是非来ていただきたいと思うので日程調整をよろしくお願ひしたい。
 - ・幹事会社については2年ごとに我々トクヤマと東ソー、出光興産の3社で持ち回っている。幹事の頑張り、総会は3分の1程度の出席が例年ある。
- ⇒（本部）一昨年は10月末に広島工業会主催で公開講

演会が行われ、やむを得ず欠席させてもらったが、今まではできるだけそういうことのないように進めていきたいと思います。

山陽小野田（廣中）

- ・山陽小野田支部は、地域支部ということでOBを含めて約25名で、その過半数が支部長が所属している西部石油の社員である。新メンバーに関しても同社に入社した広島大学の卒業生であるという状況にある。周りの会社の新入社員の情報はなく、ほぼ企業支部に近い状態である。
- ・活動状況としては、年に1度、同窓会というか忘年会のような支部総会という形で食事を含め行っている。

徳島県（斎藤）

- ・県の地域支部で広いので、総会への集まりが悪い。
 - ・本部へのお願いというか、こうされたらどうかと思いますのは、たぶん会費を払っていない方には工業会誌を送っていないのでしょうか？
- ⇒（本部）会費を払っている方には工業会誌を送っている。10年以上の会費滞納会員には総会記事の別刷を送らせていただいている。
- ・工業会は理系の方ばかりで、メールアドレスは皆さんとって良いほど持っておられるので、工業会の会費を払っている、払っていないに関わらず、メールのリストを作成し年4回位、工学部あるいは工業会の活動を要約したようなものを送ってはどうか。そうすれば経費もほとんどかからない。もし本部で面倒ということであれば、内容だけこちらに送っていただければ支部から転送することもできる。私どもの支部でもできるだけ経費を削減するために、ほとんどメールとFAXにしており、だいぶ通信費が抑えられるようになった。
 - ・それともう一つ、工業会のホームページを見ると、内容が古すぎるように思う。あまり古いものを載せていると更新していない感じがするので、古いデータは外していったほうが良い。平成10年代の総会の記事が出ていると古すぎると思うので更新していったほうが良い。
- ⇒（本部）今の2点の件ですが、メールで連絡を取る方法は良いと思うが、皆さんが今の意見のように思っておられれば良いが、先程から出ているように個人情報ということで、なかなか本部へすら流してもらえない事が多いのでリストとして作成するのは

難しい。内容的な事であれば支部の方へ送付するように公布したいと思う。ホームページの件は、非常に頭が痛い点で確におっしやられた通りである。今までは広島大学の中の一部門という形で参画できていたが、法人化されてからは外部組織である広島工業会に対する措置は大学としては難しい位置づけになっているようである。今後は広島工業会として、その辺のところを考えていくよう検討している。今後これに対して善処していくのでよろしくお願ひしたい。

香川県（福井）

- ・地域支部ですが、日本で一番小さい面積の県で、それでも西半分はほとんど出席者がなく、ほとんどの出席者が高松市中心の総会・懇親会である。支部総員は238名いるが、21年度は37名の出席であった。
 - ・今年度は6月25日に支部総会・懇親会を開催する予定である。4月に幹事会を開催し、役員若返りを図ろうと、私もこの総会で退任し、幹事で精密41年卒の永岡氏にバトンタッチする予定である。その他、幹事の方も昭和40年卒以降の方で固めて、30年あるいは20年代卒の方は顧問に退くことにしている。役員若返りということであり、引き続き参加していく。特に平成の卒業生にも参加していただいているので、均衡の取れた出席者層であると感じている。
 - ・その他、親睦会として年2回ゴルフをやっていたが、去年は1回しかできていない。世話役は幹事にやってもらいましたが、だんだんゴルフの参加者が減って、去年は6名であった。ゴルフ愛好家の方の情報を得てゴルフをされる方には参加案内を出しているが、だんだん若い方でゴルフをする人が減っている状況である。また何か懇親会あるいは行事をして会員の交流を図りたい。
- ⇒（本部）香川県内全体ということで大変かと思いますが、本部として協力できることがあればしていきたいと思うのでよろしくお願ひしたい。

高知県（多賀谷）

- ・私は広島市内で三十何年勤めまして、そのあと高知高専で5、6年働きました。高知は皆さんよくご存知の通り、「龍馬伝」のお陰で今年は400万人の旅行者を集めると言われております。なにしろ80万を切った県に400万人もの人を呼ぶということで、大変ですが、是非高知へお越し下さい。

・次に高専で色々と学生に教えていた中で、昔私がいた頃は卒業生のだいたい4割くらいが編入学で大学へ進学していた。その大学へ行く4割というのは、ほとんどが成績が上の人で、トップクラスの人が広島大学だった。ところが最近なぜか関東、関西へ集中している。優秀な人は東大、京大とか阪大へ行くわけです。そうすると、あの人が行けるなら私もと、次々とあちらの方を受けようになり、最近は広島大学へ行く人がいないと思う。それで何か打つ手はないかと、大学の先生と私達で何かできないかと、もちろん私は今、現役ではないので、学生を捉まえて広島大学はいいぞということでは難しいが、現役の先生にお願いするぐらいのことはできるかなと思う。何か知恵を絞っていただいて、人を広島に呼ぶことを考えていただきたい。これは大学側への要求かもしれない。

・昨年も同じようなことを言ったと思うが、高知の支部総会を広島で開きたいと言って、帰って皆さんにその話をしたが、いまいち反応が良くない。最近は違う事を考えまして、要は皆さんやはりメリットを考えるのかなと思う。それで一つ考えられるアイデアとして広島大学の現役の先生方と何か共同で研究できる仕組みができないかと思っている。高知における経済の問題もあると思うが、これはなんとかなるであろう。広大で現役の先生方と研究を行っている、そして高知の為にもなるという研究のネタを、実は一つアイデアがあるのだが、是非実現したいと思っている。こういうことに関する資金的な援助が、工業会から可能性があるなら是非考えていただきたい。工業会の会員が少しでもメリットを感じていただけたら少し前に進むのかという気がしている。是非よろしくお願い致します。

⇒(本部)今の話について、工業会として回答できる面と広島大学として回答すべき面と色々含まれていると思うが、工業会としては広島大学に対してその辺の所は考慮して、過去ずっとやってきている。その内容は午後の総会の時にお話しさせていただくが、そういった形でバックアップをしているので、色々ご意見があれば聞いていきたい。学生の件は、大学側の考えも色々あると思うので控えさせていただきたい。

福岡(恵本)

・今、皆様のお話を聞く中で、工業会のあり方につい

ての問題点として、私は建築の出身ですが、建築は建築としての建友会があり、同窓会、校友会、工業会といえますと、同窓会が沢山ありすぎるわけです。我々建築は建築でやると十数人集まる、また土木は土木でやると十数人集まる、各科でやると人が集まるが、なぜか工業会では数人程度の非常に寂しい会合になってきている。それで今年は各科で集まってやってもらい、それを結集するような形で活動していこうと考えている。各科の同窓会を徹底的にやってもらい、それを集合していこうではないかと思う。

・建友会は私も主導者としてずっとやってきていたが、止める方向で進めている。各会はそれぞれ会費を取っているわけだが、どうもこの会は払っているが、この会は払っていないといったばらばらな状態で、支払ってないから工業会には出にくいという人もいると思う。

・それで私がお聞きしたいのは、今後同窓会、校友会、工業会がどのようにまとまっていくのか、いかないのか、お話を聞かせていただきたい。昨年、九州大会をする上で、久留米支部、熊本県支部とご相談したのだが、時間も無く時期的に尚早ではないかということで、各支部で集まって、それをまとめればいいのではないかということになった。さらに私も昨年体調を崩しまして1年間実践できず迷惑をかけたが、是非実践させていきたいので、久留米支部、熊本県支部に声を掛けて検討していきたいと思いますのでご協力願いたい。

⇒(本部)九州一体の支部の統一に関しては、本部としても全面的に協力していきたい考えである。昨年の場合はスタート段階であったので軌道に乗らなかった面もあったかと思うが、これを継続してやっていきたいと考えている。学長を含め、その辺のところの協力が得られると思うので、連携を密にしながらやっていきたいと思う。

久留米(木下)

・久留米支部は福岡県の久留米市の支部というわけではない。県南一帯、筑豊地方といえますか、南の方では大牟田の企業もあるし、久留米、それから佐賀県にまで続く支部である。福岡県南の支部として、久留米支部ということでは進めてきている。

・会員数は約40名で、毎年9月に久留米市のプリヂストンクラブにて総会を催している。約半数の16~20

名位が出席している。

- ・年会費はいただいておらず、当日の通信費用、懇親会費を含む当日会費ということで運営をしている。毎年本部から専務理事にお越しいただいて、本部の情報を伺い、そして会員の方の中からどなたかにお願いして講演をしていただいている。その講演の演目を話の起点にして全員にマイクを回し、意見、スピーチをお願いしている。これが実に面白い効果といますか、みなさんしっかり講演を聞き、感心するほどの内容の盛り上がりになる。今後も全員参加で楽しく進めていきたいと思う。
 - ・ご承知かと思うが、地酒の産地、酒どころで酒造会社も多く、大吟醸酒や本格焼酎など寄付をお願いしているので、会費等も安上がりになっており比較的安い経費でできている。若い方にも参加の呼び掛けを色々和努力しているが、功を奏していない。若い方の会費を安くするとか、研究発表を兼ねての会社見学をお願いするなどをやっており、そこそこの効果はある。
 - ・毎年2月に役員会を開いている。私自身が地酒を造っておりますので、酒造りのシーズンに合わせて、良い酒を搾っている時に集まっていただき、皆さんに飲んでいただきながら一年の計を画策する。4月にはゴルフ会を開催するなどしている。こじんまりした支部だからできることではあるが、非常に和気藹々とした楽しい会合になっている。今年の9月11日に総会を開催する予定となっているので、できれば専務理事のご出席をよろしくお願ひしたい。
- ⇒(本部) こじんまりした支部にはそれなりのアットホームなやり方があると思う。今のような形で進めていけるのはとてもすばらしい事である。良いところはどんどん強調してやっていっていただきたい。

熊本県(古荘)

- ・私どもの支部も地域支部であり、企業グループがあまりないので会員の維持には苦労している。
- ・昨年の総会は幸いなことに、ユニバーサル造船、有明の東京ドッグ、元の日立造船所で見学会と総会を行い、13名の参加があった。
- ・会の内容は各学科の方が色々いますので、各自意見を発表していただいて、それが異業種交流の感があり、出席された方は皆さん非常に楽しみにしている。ただ、今後の会員の開拓については、名簿が整理できず、なかなか連絡が難しいと思う。

- ・熊本県支部が出来て20年位になるが、支部を作る時には本部から色々来ていただいて、私も支部が出来た時から関わりを持たせていただいているが、九州の大分市、南部の方にも支部があったように聞いているが、新しい地域支部や企業支部を拡大していかないと、新しい会員の方が増えず工業会全体の活性化が難しいのではないかと思う。新しい支部等に対する今後の考えをお聞かせ願ひたい。

⇒(本部) 活性化という意味で色々支部のあり方について今、話を聞いてきて、複合的、地域的、企業内的、こじんまりと色々あるので統一的な方法でやるのは難しいとは思ふ。新しい支部の話が出たが、その一環として若手とOBの話があったと思う。話の中では、OBが参加していないケースが多いように感じた。OBとのコミュニケーションが少なくなっているが、ものすごい人生経験を持っておられる方も多いため、その辺の所を埋めていけたらと思う。それでは新人をどうするのかという話もある。代表はどうするのか、あと本部的なことはどうするのかなど色々あると思いますので、その辺を参考にさせてもらいながら検討していきたい。

まとめ

- ⇒(本部) 参加した34支部の現状報告をいただいた。皆様からご意見をいただいたものは今後の本部の活動、支部への支援に役立てていきたいと思ひますので、皆さんよろしくお願ひします。
- ⇒(会長) 皆様色々ご意見いただきありがとうございます。会長になって4年が経ち反省すべく、できてないことも沢山あります。色々支部活動もありますが、先輩方の経験もしっかり生かしていきたいと思ひますので、支部活動には支援をしていきたいと思ひます。支援というのは支部が動きやすい形を考えていきたい。もう一点は、組織が多層化しているという話で、これについては時間がないので控えていたが、同窓会と校友会あるいは工業会をすばっとさせたいと思ひがあったが、なかなかできません。それが良いか悪いか私自身もよく整理ができていない。一番活発なのは先程の話にもあったクラスごとの集まりである。多層化しているが、それぞれに存在意義がある。整理はしていきたいが、クラス会のような地道な活動が活発化するのが良い。

(3) 工学研究院 (科)・工学部の現状と今後の重点課題



広島大学大学院
工学研究院 (科) 長・工学部長
吉田 総仁 教授

この写真は皆さんがよくご存知のように、一番上にございますのは、元々千田町にございました工学部の門柱です。これが新しいキャンパスの中に移設されまして、現在でも広島大学工学部のシンボルになっています。広島大学の工学部周辺の並木も、大変きれいになってきております。もうすでに27年、28年が移転してから経っております。それで昨年の大きな事業と致しまして、ここに4つ大きな高層棟がありますが、耐震補強するためのリニューアル工事が始まりました。建築・土木それから、旧で言いますと船舶系が入っていた建物が終了し大変きれいになりました。当初計画では順次こちらの電気・電子・情報系のA1棟、次が機械系A3棟、化学系のA4棟と続く予定でしたが、ご存知のように国の財政事情が大変悪くなりまして、現在ストップして再開を待っている状態です。

広島大学工学研究院[科]・工学部の現状と今後の重点課題



H21年度にA2棟の耐震補強・リニューアル工事が完成しました



これは広島大学の全体的な目標ということで書いてございます。とりわけ現在の浅原学長におきましては、平和を希求する精神を非常に大事にしたいということで、こういった重要な原則を前面に出していません。その中で、1つ重要なのは、広島大学全体としましては、世界トップレベルの特色ある総合研究大学になる。世界のトップレベルというところに力点がございます。もうひとつは、6年前から国立大学の法人化という言葉が加わりました。それで6年ごとに第一期

中期計画・中期目標を定めて文部科学大臣の承認の元にその計画がきちんとできているかがチェックされ、その成果を評価されるということがございます。第一期が昨年終わりましたが、その時の成果に対する評価は、大学の評価でいいますと、優・良・可のうち良であったと思います。第二期が今年から始まっておりまして、引き続きこれを頑張っていって行きたいと思っております。



広島大学の理念・目標

理念5原則 (H7. 10. 17)

- 平和を希求する精神
- 新たなる知の創造
- 豊かな人間性を培う教育
- 地域社会・国際社会との共存
- 絶えざる自己変革

世界TOP 50

長期ビジョン [H15. 1. 21]

理念：理念5原則を基本理念として堅持
目標：世界トップレベルの特色ある総合研究大学

平成22年度から6か年間の国立大学法人としての第二期中期目標・中期計画にもとづく教育・研究・社会貢献の取組みが始まりました

全体的には世界のトップランクにいきたいと申し上げておりますが、これは色々なデータがございまして、時間もないので簡単に申し上げますと、例えば研究ということでいいますと博士号をどのくらい出しているのかというランクがございまして、現在では東京大学が当然の事ながら規模が一番大きいので一番多いのですが、旧帝大、それから東京工大、筑波大学、神戸大学、広島大学というような順番で今12番目に多く学位を出しているということ。それから科学研究費補助金という、これも競争的な資金ですが、これは11位ということになっています。それから論文がどのくらい世界の人達から引用されたのかというデータが今では分かるようになっておりまして、これも国内でやはり11位ということ。それで、国からのお金がどのくらい投下されているかということを見ますと、これが9番目です。名古屋大学に次いで9番目に大きなお金を国から受けていることになる。以上、私が対外的に話をする時には国内でトップ10に入る大学なんだと、いつも海外などでも申し上げます。こういったスタンスをさらにトップ10のもっと上の方に行きたいということでやっております。

1-3 データに見る広島大学-資産・予算-

運営費交付金 (2009年度)		
大学名	運営費交付金 (億円)	
1 東京大学	879	
2 京都大学	596	
3 東北大学	496	
4 大阪大学	493	
5 九州大学	464	
6 筑波大学	419	
7 北海道大学	393	
8 名古屋大学	359	
9 広島大学	294	
10 神戸大学	221	

工学部、工学研究科の内容について話をさせていただきます。まず、学生数ですが、毎年大きく変わっているわけではございませんが、学部学生が現在2,257名、それから大学院生が759名、研究生等いろいろ入れまして約3,000名ということでございます。これは広島大学全体で15,600名ほどおりますので、約5分の1が工学部あるいは工学研究科の学生ということになります。教員数は、実は全学の1,800人位に対しまして200人位です、9分の1ということです。少ない教員数で多くの学生を抱えて教育しているということが言えます。それから学位を出しているという面から見ると、修士が全学の4分の1、博士は8分の1が工学系から出していることとなります。

工学研究科の概要 -学生数と教員数-

学生数：1/5

2010年度	工学部・工学研究科	広島大学
学部学生	2,257	10,969
大学院生	759	4,365
研究生等	33	242
外国人留学生	(170)	(1,062)
計	3,049	16,678

教員数：1/9

2010年度	工学研究科				計	広島大学
	教授	准教授	講師	助教・助手		
教員	70	60	1	72	203	1,808
職員					25	1,519

学位授与 (2009年度終了時点)

修士：1/4
博士：1/8

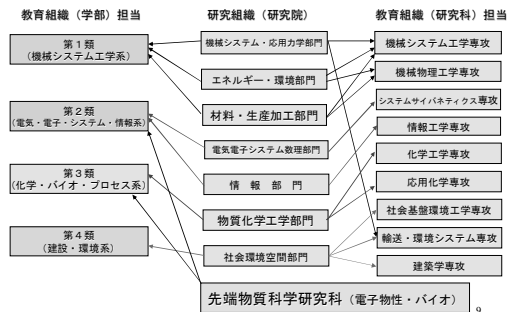
	工学研究科	広島大学
修士課程前期	283	1,164
修士課程後期・博士課程	39	321

工学研究科、工学部は全学と同じように、世界のトップレベルの研究、それから人材養成の目標としては、国際的舞台上で活躍できる人材に育てたい。それから産学連携、社会貢献を推進していくということがあります。これに向けて今年度から、大学院を改組したということがございます。このことについて少しお話をさせていただきます。

これが新しい工学部・工学研究科の組織でございます

ですが、従来は5つの専攻でございましたが、今回は9つの専攻になりました。

工学部・工学研究科(院)の新しい組織



*工学研究科は従来の5専攻から9専攻に移行しました

具体的には、機械システム工学専攻、機械物理学専攻、システムサイバネティクス専攻、情報工学専攻、化学工学専攻、応用化学専攻、社会基盤環境工学専攻、輸送・環境システム工学専攻、建築学専攻となっております。ここにお集まりの諸先輩方は従来の学科というものをイメージされるかと思いますが、例えば精密と機械、それから電気、経営、化学工学、応用化学、発酵工学、土木、建築、船舶というイメージがあるかと思いますが、実はそれにかかなり対応したような構造になっております。先程申し上げませんでした、実は電子物性と発酵工学であるバイオが先端物質科学研究科という別の研究科の方になっております。但し、学部の学生は発酵工学の場合でしたら引き続き第三類化学・バイオ・プロセス系等を卒業し、それが従来の工学研究科ではなく、先端物質科学研究科の方へ行く構造になっています。このように、今回の改組を全体としてみますと、工学の体系において極めてオーソドックスなスタイルになったと言えるかと思えます。その他に、産業界との対応関係も非常にはっきりして、就職とかそれから産業界との共同研究など色々な面で実際スムーズに行きやすい形になったと言えると思います。

教育の内容的なポイントですが、教育の国際化のために英語のみで講義、セミナー、論文作成をすることもできるようにしております。しかし、これは全ての学生に参加してもらい全員がそうするという意味ではございません。そのようにしたい学生がいれば、日本語を使わずに全て英語で教育を受けることもでき、そして修了することが出来るということです。この狙いは大きくいうと二つございまして、一つは確かに英語

で講義するというので、将来的には優秀な留学生を獲得していきたいといったこともございますが、現在の時点で考えますと、もう少し重要な目標があって、日本人の学生が国際舞台で活躍できるような基礎を作っていってもらいたいということで今年から始めています。英語だけで全てのプログラムをやるのはなかなか難しいとしても、自分がよく分かっている分野の内容をもう一回英語で教育を受ける、あるいは場合によっては修士論文を書く時に英語で書いてみるというように色々な場合があると思いますが、そういうことを組み合わせてやっていきたいと思っています。それから一番大きいのは、実は博士課程前期、いわゆる修士課程ですが、定員が171名から240名に増加致しました。従来、約7割位は修士課程に進みますので定員が171名というのは非常に少なく、大きな定員超過で、160%あるいは一番ひどい時には200%近く入れておりました、文科省あたりからそのことを大変問題視されておりましたが、ようやくそれは解消する目処がつかえました。そのようなことで、非常に新しい大きな出発点だったと思っています。

新しい大学院教育と組織改編のポイント

- 各分野の特色ある基盤的専門教育を充実させるために、現状の5専攻→9専攻とし、カリキュラム改革も含めた教育改善
- 教育の国際化のために英語のみで講義・セミナー・論文作成をする英語プログラムの開設
- 教育研究領域をまたがる重要な分野の教育のために融合領域プログラムの開設
- 以上のために博士課程前期の定員増171→240名(69名増)
- 教育に対する教員の弾力的運用を可能とするように、研究組織(研究院)と専攻(研究科)に分離

引き続き、国際交流についてお話ししたいと思います。昨年度はカナダのアルバータ大学、国立ソウル大学、どちらも世界有数の大学でございますが、工学部との部局間協定を締結しました。それから従来からの協定校であるリーズ大学やトロント大学、上海交通大学等とも引き続き活発な活動が行われています。特徴的には、ここに2つ書いてありますが、海外インターンシップ事業といたしまして、これは修士の1年生ですけれども、年間約10人くらいが日系のアジアの企業に夏休み等を利用してインターンシップを受け入れてもらっているという取り組みです。それと合わせて海外共同研究ということで、私たち教員は色々な大学と海外共同研究を行っています。そこに大学院生を参加さ


せ、向こうに派遣して、長い時は1ヶ月位、実験を行ったり訓練をさせるということも進めているところです。将来はそういった色々な有名大学と、単位の互換性とか相互に学位を出し合うというような非常にユニークな方向を目指したいと考えています。最近活発な交流の1つとして、国立台湾中央大学とは教員の相互派遣とかウェブ利用の共通講義が本年度から始まります。これに限らず、今後色々な形で国際的な交流をしながら教育もやっていく方向を強めていきたいと考えています。

工学部・工学研究科の国際交流

工学研究科海外協定校：36校
客員研究員受入：20名/年
平均滞在4.5ヶ月
留学生受入：175名

中国：86
オーストラリア：22
韓国：20
インドネシア：19
その他：78(2015.3.31現在)


○ 平成21年度には新たにアルバータ大学(カナダ)、国立ソウル大学(大韓民国)との部局間協定が締結されました。
○ 従来からの協定校(リーズ大学(英)、トロント大学(カナダ)、上海交通大学(中国)など)とも活発な交流が行われています。



広島大学

海外インターンシップ：10-12名/年
海外共同研究学生派遣：8-10名/年

チュラロンコン大学(タイ)：2名
京都交響楽団(中国)：1名
大連理工大(中国)：1名
クイーンズスタンダード(韓国)：1名
トロント大学(カナダ)：1名
重慶大学(中国)：2名
アルバータ大学(カナダ)：1名
タマサート大学(タイ)：1名
2015年度数



この4月からフェニックス工房というものが完成致しました。これは何かと申しますと、学生のためのものづくりセンターで、これが建物でございます。1階部分には工作機械があり、主に工作とか加工をやるようになっています。これは学生が自主的に技術職員が面倒を見てくれながら色々な物を作ったりできるということで、この場所が作られました。それから2階部分は建築系の製図・デザイン用になっていて、実は授業でも使っています。どちらも一部授業でも使うということにしており、非常に良い施設が出来たと思います。

フェニックス工房：学生のためのものづくりセンターがH22.4に完成しました。




1階は主に機械加工・2階は建築系の製図・デザイン用です。




ご支援よろしくお願い申し上げます。

これに関しましては、学長からこの建物本体は大学が整備しますというお話をいただきました。但し、この中に入っている機器、設備関係については、工学部・工学研究科の自前でやりなさいということになっております。この件につきまして、広島工業会様には、高東会長様をはじめ色々な方にも大変なお願いをしております、今日の総会で具体的なお提案を頂けると聞いておりますので、ひとつよろしくお願ひ申し上げます。それと合わせて、諸先輩方からもこの物は活用できるとか、工作機器を整備するにはどうしたら良いかなどのアドバイスを頂いております。その中の一つとして、例えば工業会には会社を営んでいる方も沢山いらっしゃるの、学生が使用する工作機器などは、会社としては更新時期がきているが、学生が使うには十分だという物もあるのではないかと。そういった物を積極的に、言うならば頂くようお願いもした方がよいのではないかとアドバイスも頂いております。工業会誌にもそのお願ひを掲載させていただきたいと思っておりますので、そういった物がございましたら、是非ご一報頂ければと思ひます。

それと関連してありますが、そういったフェニックス工房を使ってどのような活動が行われているかということで、1つご紹介させていただきます。それは全国でやっている鳥人間コンテスト。

鳥人間コンテスト：学生による自主的活動例



第32回大会(2008年)
人カブドウ機デザイン部門
広島大学工学部 HUES
記録:406.80m

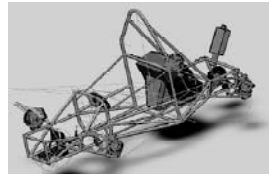
第32回大会(2008年)
人カブドウ機デザイン部門
広島大学工学研究科 KAEDE

***7月24日(土)、25日(日)の両日、琵琶湖東岸にて開催され、2機とも出場いたしますのでご支援をよろしくお願ひいたします。**

テレビでも放映しておりましたのでご存知の方が多くと思ひますが、実は昨年はスポンサーが付かないからと中止になりましたが、今年は開催されるそうです。広島大学はずっと割合良い成績を残しながら参加しております。今年は7月24日、25日に琵琶湖で飛距離を競ったり、あるいは滞空時間を競ったりというようなことが行われます。今、学生も一生懸命その準備をしております。それと合わせて今年からは、学生

フォーミュラという活動も始まりました。

学生フォーミュラの活動も始まりました



ご支援をよろしくお願ひいたします

教員が一生懸命指導しておりますけれども、これは今作っている物の骨組みでございますが、溶接をしているところです。こういった大会も今年から学生が自主的な活動で参加するということでございます。ですから、先程お話しさせていただきましたが、フェニックス工房というのは、こういった活動にも学生が使えるような施設となっております。

なお、産学連携というようなことについても、広島大学は力を入れております。外部資金という形で約5億円以上のお金が毎年共同研究、受託研究という形で入っております。ですから、もし皆様方の会社でこのようなことをやってみたいということがございましたら是非お声を掛けて頂ければ宜しいかと思ひます。あるいは、どこに言えば良いか分からないという場合は、具体的なテーマ、内容を伺えば、大体それに対応できる教員がいるかというのが分かりますので、是非共同研究あるいは受託研究などもさせて頂ければと思ひます。その中でも、包括協定という形でやっているものもございます。例えば、マツダさんとかバブコック日立さんとは、組織対組織という形でやっております。マツダさんとは十数件の共同研究がその大きな枠組みの中で動いているということでもあります。

以上で、工学研究科の取り組みの概要を説明させていただきました。引き続きご支援の程よろしくお願ひしたいと思ひます。どうもありがとうございます。